

令和3年度庄原市複式・少人数指導研修会

令和3年11月10日(水) 庄原市総合体育館

複式授業や少人数指導における指導の在り方を研修することを通して、児童生徒が主体的に学び合う学習を目指した授業改善を図ることを目的に、研修会を行いました。

【講話・協議】「主体的に学び合う学習を目指した授業づくり

～複式学級 算数科の授業を通して～

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 片山 博子



- 庄原市立比和小学校の算数科の授業ビデオをもとに、主体的に学び合う学習に向けた手立てについて研究協議を行った。
- 複式学級の学習指導には、「自ら学ぶ力」の育成、個に応じた指導の充実、単式学級の学習指導への指導法の応用などの可能性がある。
- 学年段階に応じた指導や支援を行うことが大切である（低学年段階ではリーダーノートの活用や学習の流れの掲示、高学年段階では関わり合いのある学習スタイルの定着、学習リーダーの計画的育成等）。

【参加者の感想等】

- 児童が教師を頼らず、自力解決しようとする姿から、児童が教材に主体的に関わりながら友達と対話し学び合う授業づくりをしていきたいと思った。
- リトルティーチャーの育成を行いたいと感じた。学級全体でなくても、グループの中のリーダーなど、役割をもつことで力を付けさせることができ、生徒本人の自信にもつながっていくと思う。

【講話・交流】「深い学びに向けた授業改善に向けて

～『協働的な学び』と『個別最適な学び』に向けた取組の交流を通して～

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 片山 博子



- 「令和の日本型学校教育」では、すべての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。その際、ICTのもつ特性を最大限活用して行くことも重要となる。
- 各学校における、取組の実践の交流・共有を行った。

【参加者の感想等】

- 交流した際に、タブレットを活用して音読テストやリスニングを行うことで、「個別最適な学び」を実現させている実践を聞いたので、自校の授業にも取り入れたい。
- 「協働的な学び」において自己の学びの姿をメタ認知することで、改善点を見付け、よりよくしていく力を育成することができると分かり、授業づくりについて参考になった。